

自己評価及び外部評価結果

令和2年度

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490900154	事業の開始年月日	平成21年4月1日	
		指定年月日	平成21年4月1日	
法人名	(株)ニチイ学館			
事業所名	ニチイケアセンター樽町			
所在地	(〒222-0001)			
	神奈川県横浜市港北区樽町4-9-30			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	令和3年2月2日	評価結果 市町村受理日	令和3年5月18日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者様、その御家族と信頼関係が構築できるよう些細な事でも連絡、報告するようにしています。月1回たよりなどで様子等も伝えております。医療との関係を強化しており、些細な事でも医師、看護師に相談し、特にコロナが流行してからは利用者様の体調管理に気をつけています。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年2月25日	評価機関 評価決定日	令和3年5月4日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 事業所は、東急東横線綱島駅東口よりバスで約5分、札の下停留所より徒歩5分ほどの住宅や工場、小さな公園などが点在する場所に位置している。鉄筋造り2階建ての建物2階の1ユニットのグループホームである。1階には同法人の通所介護事業所、訪問介護事業所、訪問看護事業所がある。リビングに面して広いベランダがあり、利用者が日光浴、外気浴、プランターの草花への水やりなどをして気分転換している。</p> <p>【充実した医療体制】 利用者全員が、協力医療機関である内科医、歯科医の月2回（歯科医は月1回）の訪問診療を受けている。内科医は、24時間オンコール対応である。歯科医は、歯科衛生士と来訪し治療や口腔ケアを行っている。その他の専門医の通院は原則、家族が付き添っている。訪問診療や通院の受診情報は、職員が、受診・健康管理記録や連絡ノートに記録し、職員間で共有している。</p> <p>協力医療機関の看護師が、月2回の内科医の訪問診療に同行している他、週1回訪問看護師とて、来所して健康管理を行っている。また、内科医の訪問診療には薬剤師も同席しており、医師、看護師、薬剤師、職員が効率的に連携している。事業所は、多様な医療サービスや医療関係者との連携により、充実した医療体制を構築している。</p> <p>【利用者本位の楽しい食事】 昼食と夕食は、専門業者の献立と食材を使用して、職員が調理している。朝食は、管理者がスーパーに買い出しに行き、利用者の好みを反映したものを提供している。利用者は、野菜の皮むきや、調理、テーブル拭き、後片付け、食器洗いなど、できることを楽しんで手伝っている。</p> <p>誕生日にはケーキを提供して祝っている。敬老の日や、クリスマス、正月などの行事の時には特別メニューを提供している。また、寿司やウナギ、牛丼などの出前をとるなど、食事を楽しんでいる。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター樽町
ユニット名	ニチイのほほえみ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関前に理念を掲示しています。毎月の職員会議にて確認し、常に理念を意識しながら支援をしています。毎月のミーティング等でも共有しています。	職員が話し合って策定した事業所理念「ここは樽町家 すべての人が笑顔で楽しく過ごせる家」は、玄関に掲示して周知している。職員には、着任時の説明や毎月の職員会議で、理念の意味や、理念に基づいたケアの実践について周知・確認している。理念に基づき、利用者には、入居時に好きな物を持ち込んでもらい、自分の家のように過ごしてもらえるように支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域美化活動等に定期的に職員と利用者で参加しています。コロナになってからは休止中です。	町内会に加入して、回覧板で地域の情報を得ている。地域の美化活動・敬老会や、地域ケアプラザ主催の芸術祭・夏祭り、公会堂で開催されるダンスフェスティバルに職員と利用者が参加している。毎週傾聴のボランティアを受け入れている他、1階の通所介護事業所にボランティアとして来訪する中学生の吹奏学部の演奏や、落語、フラダンスを見学に行き交流している。(今年度、地域交流はコロナ禍で中止している)	

3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の方が介護の事で相談できるように、玄関に案内のボードを設置しています。コロナになってからは休止しています。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催しています。ケアプラザの職員、民生員、御家族に参加していただき意見を頂戴しています。コロナの為、去年4月より開催休止しています。</p>	<p>運営推進会議は、2か月ごとに利用者、家族、民生委員、地域包括支援センターの職員が出席し、開催している（今年度は中止、4月再開予定）。議事内容などは、議事録を区役所に持参して報告している。出席者から「夜間は職員が1名となるため、火災などに備えて対策を講じて欲しい」という要望があり、地域の消防団に相談して、指導してもらった。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>港北区役所に月1回ほど出向き、高齢支援課、生活保護課の職員の方に情報を提供しています。</p>	<p>管理者は、月1回区役所を訪問し、高齢・障害支援課や生活支援課に空室情報の提供などを行っている。高齢・障害支援課には、利用者の要介護認定の申請代行でも訪問している。生活支援課とは、電話連絡で生活保護を受給している利用者に関する情報を共有している。今年度は、マスク、消毒液、フェイスシールド、手袋などの在庫管理などについて、市や県などと連絡を密に取り合っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回身体拘束について研修しています。必要時は家族に承諾を得ています。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、身体拘束廃止委員会を毎月開催している。委員会では、身体拘束の有無の振り返りや、身体拘束等のない介護を実現するための方針の共有や、スピーチロックの事例検討を行い、ケアの質の向上につなげている。事務所の出入口は開錠しているが、1階の玄関は、通所介護事業所と共用のため施錠している。外出願望の強い利用者には、職員が付き添い対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の研修をしています。事業所全体で虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の方が後見人制度を利用しています。		

9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>問い合わせがある場合は、分かりやすく説明するよう心がけています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置。運営推進会議等で出た意見等は、会議で職員と共有し検討しています。ここ最近はあまりありません。</p>	<p>家族の意見・要望は、家族の参加する行事(敬老会、忘年会、クリスマス会等)、運営推進会議、ご意見箱、面会や電話連絡で聞き出している。メールも希望があれば対応している。管理者は、ケアで判断に迷った時などに、家族に相談して意見を聞くよう心がけている。折り紙の得意な家族から「折り紙を利用者の皆さんと一緒にやらせて欲しい」との要望があり、講師として招き利用者と一緒にやってもらった。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回会議の場にて、意見交換し、皆で検討するようにしています。	職員の意見・提案は、管理者が、日々の会話や、毎月の職員会議で聞き出し、運営に反映している。また、職員の様子が気になった時などに個別面談を実施して、相談に乗っている。管理者は、職員と話す際は、傾聴を心がけ思いを受け止め気持ちよく仕事ができるようにしている。職員から「節分は、職員が鬼の格好をしてベランダでやったらどうか」との提案があり実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度。資格手当。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修資格取得の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	支店にて月1回ホーム会議を開催しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、ご家族に不安に思う事を聞き、安心してサービスが受けられるよう心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントにて、心配事が少しでも解消できるよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現段階で何が必要か考え、的確に提示できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事が一緒にできる方は職員と一緒にいき、信頼関係を構築できるよう心がけています。コロナになってからは、役割を増やして活動していただいています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話等で状況を伝えるようにしています。ほほえみだより等で状況をお伝えしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の昔のお友達がよく来訪されます。コロナになってからは面会を自粛していただいています。	入居時のアセスメントや家族からの情報で、利用者の生活歴や馴染みの関係を把握している。友人や知人の面会時には、居室に案内し湯茶でもてなしている。電話や手紙の取次ぎを行っている。利用者には馴染みのシャンプー購入の支援、家族が持参する馴染みのジュース、和菓子などの取次ぎを行っている。趣味の読書や塗り絵を継続している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席等は職員にて配置を調整しています。トラブルにならないように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば、丁寧に受けています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思の疎通が困難な方は、家族から意向を伺いケアプランに反映させています。	職員は、入居前に自宅を訪問して、住環境や生活歴を確認している。入居後は、日常の会話や、利用者間の会話などから思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者には、入居後に把握した情報や、利用者の行動・表情、家族からの情報を基に推測している。把握した情報は、連絡ノートやアセスメント情報で共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活の中で情報を収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日職員で情報を共有し、状態を把握するようにしています。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>モニタリング、担当者会議で意見を出しあいケアプランに反映させています。</p>	<p>介護計画は、アセスメントとモニタリングを基に、職員会議のなかでサービス担当者会議を行い、利用者・家族の要望と医療関係者の意見を反映して作成している。モニタリングは、6か月ごとに計画作成担当者が行っている。計画は6か月ごとに見直し、状況変化時にはその都度見直している。介護記録に実施した介護計画のサービス内容の番号を記録して、ケアとの連動を図っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個々の介護記録をつけて、職員は出勤時に確認します。変化があれば意見をだしあいケアプラン更新に活用しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、御家族の意向にそってサービスを行うよう心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商業施設やスーパーと一緒に買い物に行きます。コロナになってからは休止しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在横浜北クリニックという機関を利用しています。家族からも信頼されています。	利用者全員が、協力医療機関である内科医、歯科医の月2回（歯科医は月1回）の訪問診療を受けている。内科医は、24時間オンコール対応である。歯科医は、歯科衛生士と来訪し治療や口腔ケアを行っている。訪問診療の受診情報は、職員が、受診・健康管理記録や連絡ノートに記録し、職員間で共有している。専門医の通院は原則、家族が付き添っている。通院の受診情報は、家族から職員が聞き取り、訪問診療と同様の方法で共有している。	

31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回の医療連携にて看護師の方に少しの変化でも伝え、必要時はその時に電話にて相談にのっていただいています。コロナになってからは、些細な事でも相談しています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には情報をしっかり伝えられるように努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明をしています。家族の意向にそえられるよう医療機関と連携を図っています。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。看取りを行う場合は、家族に説明して同意のうえ開始している。管理者、職員と家族、医療関係者が連携して支援している。管理者が講師となり看取りに関する研修を行う予定である。昨年は3名の看取りを行ったが、看取り後の振り返りは行っていない。	事業所では、看取りに積極的に取り組んでいます。看取り後には、職員会議などで看取りの振り返りを行い、看取りに関する更なるスキルアップを図ることが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を会議の場で共有しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年度2回の避難訓練を行い、地域の消防団の方にも参加してもらっています。今年度の開催は今時点で1回で2回目は3月開催予定です。密をさける為に、拠点職員のみで開催予定です。	11月に夜間想定火災と地震の避難訓練を実施した。水害を想定した訓練は今後実施する予定である。新型コロナ禍以前は、避難訓練には地域の消防団や住民も参加してもらい、地域住民には、利用者の見守りを行ってもらっていた。地域の防災訓練に職員と利用者が参加していた。災害用備蓄品は法人が管理しており、5日分の食料と飲料水を確保している。	事業所は、鶴見川の浸水想定区域に指定されています。避難確保計画に基づいた水害を想定した避難訓練の実施や、事業所内でのハザードマップの掲示、職員への周知などが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の意思を尊重し、マナーには気をつけて対応しています。	職員は、入社時研修や年1回の研修で接遇について学んでいる。利用者は名字に「さん」を付けて呼んでいる。記録は利用者名ではなくイニシャルで記載している。フロアで介護記録などを記載する際は、利用者の目に触れないよう、周辺に十分配慮して行っている。職員の会話や行動が、利用者を傷つけることがないか目配りし、気付いたことはすぐに指摘している。また、内容によっては、研修や会議でテーマとして取り上げ指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	しっかり聞き、自身で決定してもらおう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	希望にそえられるよう心がけています。		

39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>着たい物を着てもらっています。選べない方は職員が助言しています。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>できる方はいただいています。</p>	<p>昼食と夕食は、専門業者の献立と食材を使用して、職員が調理している。朝食は、管理者がスーパーに買い出しに行き、利用者の好みを反映したものを提供している。利用者は、野菜の皮むきや、調理、後片付け、食器洗いなどを手伝っている。利用者の状況に合わせ、トロミ・刻み・ミキサー食を提供している。誕生日にはケーキを提供して祝っている。敬老の日や、クリスマス、正月などの行事の時には特別メニューを提供している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を毎回記録し状態把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回3食後に行います。歯科医の助言等もいただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	残存機能をいかせられるようになるべくトイレにて排泄していただいています。	排泄は、介護記録で排泄パターンや特徴を把握し、定時誘導や利用者の様子や仕草をとらえた随時誘導を行って、トイレでの排泄を支援している。誘導の際は小声で話しかけるなど羞恥心に配慮している。失敗した場合は、利用者を傷つけないよう、また、周りに気づかれないように対応している。夜間は、睡眠優先や定時誘導など個人の特性に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師に相談し予防に努めています。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>2日おきくらいで皆様に入浴してもらい、希望される方にはその都度に入れる体制を整えています。</p>	<p>入浴は、週間予定表を基に原則週2～3回、午前中を中心に、お湯はかけ流しにして入浴してもらっている。入浴を好まない利用者には、時間や曜日の変更で対応している。入浴しないという意思も尊重し、無理強いしないようにしている。重篤な利用者は、清拭で対応している。利用者には、菖蒲湯や柚子湯の他、職員との会話や歌、入浴剤などで楽しく入浴してもらっている。同性介助の要望がある場合は、対応している。</p>	
----	----	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が声かけをして休んでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がおきないように、ダブルチェックにて対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割をもってもらう事で、生きがいにもなってるようです。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は全ての希望には答えられてないと思います。コロナの為に必要以外は室内での活動としていただいています。	現在は、散歩はできずベランダでの外気浴、日光浴に止まっている。新型コロナ禍以前は、車椅子の利用者も一緒に、近隣のスーパーや薬局、中学校などに散歩していた。また、初詣や花見、紅葉狩りにドライブで外出していた。家族の支援で、外食や買い物、墓参りなどに出かけていた利用者がある。利用者の外出歴を業務管理日誌に記載して把握し、外出する人に偏りがないように心がけている。	

50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い金は事業所にて管理しています。		
----	---	---------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身にて電話をかける方はいません。受話器に出れる方は、案内しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感をだす工夫はしています。	リビングの外にはベランダがあり、利用者が外気浴や日光浴を楽しんでいる。リビングは、車椅子の導線を考えテーブルや椅子を配置している。温度・湿度は、エアコンと加湿器を使用して、職員が快適な状態になるよう調整している。換気にも留意している。リビングには、折り紙などの利用者・家族が制作した作品や、クリスマスツリーや節分の鬼のお面などを飾り付けている。廊下には、利用者の写真を模造紙に貼って掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人で入れる空間は用意しています。玄関先にソファを置いていると、1人で利用者が座る時があります。		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>私物を部屋に好きなように置いてもらってます。</p>	<p>居室には、エアコン、クローゼット、照明器具、カーテンが備え付けられている。アセスメントで介護ベッドが必要な場合、事業所が提供している。テレビ、ぬいぐるみ、タンス、椅子などの馴染みの品や、利用者が制作した作品、土産の置物、家族の写真、仏壇などの思い出の品が持ち込まれ、個性豊かな居室になっている。安全対策として、家族の同意を得て、離床センサーを使用している利用者もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>場所が分かりやすいようには工夫をしています。部屋の表札など。</p>		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニクウアペタ-樽町

作成日 2021年5月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	水害を想定した訓練が実施できていない。事業所は浸水想定区域に指定されていない。	水害を想定した避難訓練の実施を行う。	事業所内でのハザードマップの掲示、職員への周知。	2021年9月30日までに完了。
2	33	看取り後に振り返りを行っていない。	看取り後に振り返りを行い、職員のスキルアップを図る。	看取り後は職員が共有を図り、反省点を今後には活用、改善する。	随時
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。